

鳴門市国語研究会のあゆみ

1 本市の状況

小学校18校，各校国語主任と研究部員合わせて29名である。今年度は，6月に里浦小学校で研究授業・授業研究会を，7月には鳴門市林崎小学校で鳴板国語教育研究会を行った。「読むこと」を見据えた国語科授業の充実を図るために，全部員が一致協力して研究に取り組んできた。1月にも，研究授業を予定している。

2 研究組織

係校長	岩佐 財三（鳴門西小）	寺田 裕（林崎小）
係教頭	野口 幸司（里浦小）	藤田 進（鳴門西小）
部長	山尾 稔子（里浦小）	
副部長	勝野 昌子（鳴門西小）	高谷 好美（鳴門東小）
会計	三木 恵子（鳴門第一小）	

3 研究のあゆみ

(1) 研究主題

主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造

「読むこと」を基盤に，知識・技能の習得と活用する力の育成を図る学習指導

(2) 研究経過

4月16日（木） 市国語部会（大津西小）

本年度の組織づくりと研究計画の立案

6月11日（木） 市国語部会（里浦小）

< 研究授業・授業研究会 >

授業者 野口 幸司教頭（里浦小，5年生）

単元名 インタビュー名人になろう 「千年の釘にいどむ」

本時の学習

< 本時の目標 >

・学習者の活動目標

白鷹幸伯さんへのインタビューを台本にして練習しよう。

・指導者の指導目標

古代の釘の固さについて白鷹さんが発見したことを読み取ることができるようにする。

< 本時の評価 >

「十分満足できる」と判断できる状況	部分をたずねる小さな問いと全体をたずねる大きな問いとの関連（話題文の働き）に気づいている。 本時に読み取った釘の固さだけでなく，先に述べられていた釘の形状や鉄の純度についての発見と結びつけた感想を持っている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	範読を聞かせることで，意味のまとまりをとらえさせる。 答えになる部分（教材文）を載せたワークシートを使い，問いと答えの関係をつかませ，文意や段落の要旨をとらえさせる。

7月18日(土) 鳴板国語教育研究会

<公開授業> 授業者 秋岡あふひ教諭(林崎小, 5年生)
単元名 作者と語ろう「大造じいさんとガン」
本時の学習

<本時の目標>

・学習者の活動目標

棕鳩十さんは、大造じいさんの行動や気持ちを表す文以外に、景色を描いた文をどうして入れたのか考えよう。

・指導者の指導目標

大造じいさんの心情と場面が響き合っていることに気付かせ、情景描写の効果を感じ取らせる。

<講演> 講師 児童文学作家 石井 睦美先生
演題 「今、児童文学を書くということ」

8月27日(木) 市国語部会(里浦小)

統一大会提案発表についての原稿検討会
教育課程研究集会報告

11月20日(金) 第32回徳島県小学校国語教育研究大会参加(小松島市新開小学校)

<提案発表>

発表者 野口 幸司教頭(里浦小, 2年生)
研究主題 反復による言葉の力の定着を目指した単元構成
発表の概要

ア <提案>基本的に同じ言語活動を螺旋的に反復することで、言語の力の定着が図られる。

イ 「じゅんじょに気をつけてよもう/たんぼぼのちえ」の実践

ウ 「書いて知らせよう/かんさつ名人になろう」の実践

エ 「本と友だちになろう/スイミー」の実践

オ おわりに(抜粋)

児童にとって、できることは楽しいことである。「できるようにしておいてやらせる」ことが、学ぶ意欲を育てることになる。基本的に同じ学習活動が繰り返されるということは、指導する側からすると、前単元でのつまづきを次単元で修正することができるという利点がある。繰り返しているうちにできるようになってくることが多い。児童の伸びを把握して、賞賛の声をかけてやりたい。

本来、「国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本としている」(「小学校学習指導要領解説国語編」学習の系統性の重視)ことを再認識したい。

(3) 今後の研修予定

1月14日(木) 市国語部会

研究授業・授業研究会 授業者 岡本 智穂 助教諭(明神小, 2年生)

県の研究主題に沿った研究の反省と来年度の課題、「作文読本」の採用拡大

(里浦小学校教諭 山尾 稔子 記)